

東日本大震災岩手県共同対策本部ニュース

事務局
いわて労連
No.4
2011.3.23

第3回対策会議開く

3月22日、岩手県共同対策本部の第3回会議を開きました。

各団体の活動を報告し合い、災害救援の現状とこれからの対応を話し合いました。

◆状況報告

被災地への救援物資はそれなりに確保している。ただし、県の集積先である産業文化センター（アピオ）からの搬送は、まとまった量で行っているため、物資が留まっている問題がある。また、避難先に救援物資が届いているが、被災を受け個人宅にいる人々には届いていないという問題や被災地における要望等を重視する必要がある。

◆共同対策本部の機能について

改めて機能について意見交換を行う。前回会議での確認事項に付け加え、全国から寄せられる救援物資やボランティアの受け入れ等の活動も行う（支援共同センターの機能）を確認。

◆支援受け入れ体制について

受け入れ時期等については、現在、各団体が全国に対して救援物資やボランティアの受け入れを止めており、その開始時期は各団体の準備状況や全国災対連の動きもふまえ、次回の会議で協議する。（全国の救援物資受け入れ倉庫についてJA岩手県中央会に要請中）

また、県段階の受け入れ体制とともに、被災地における受け入れ体制（地域支援センター）づくりが求められる。現在、各団体で準備を進めている取り組みを踏まえながら確立をめざす。（大船渡・陸前高田、釜石・大槌、宮古・山田、県北の4ブロックに地域センターの設置）

会議の中で消団連より、生協も共同対策本部に加えてほしいという提案があり、心強く迎えることにしました。

◎各団体の取り組み

●農民連

農民連では全国各地から送られる支援物資を配送しています。自前のトラックでは間に合わなくなり、営業車を頼んで回ることも考えています。



大槌町

●岩商連

陸前高田、上閉伊と2つの事務所が流された岩商連では地域の支援拠点作りを急いでいます。大船渡と陸前高田にリースコンテナを置いて、物資の配布拠点を作る予定でいます。

●民医連

3月19日、20日と大船渡、陸前高田市の避難所を回り、医療相談100件以上、処方方を数10件行いました。全国民医連では連続して医療チームが入っています。医療支援の拠点作りで現地に入っていますが、長期・総合的な視野で医療拠点作りを考えています。

●共産党

日本共産党岩手県委員会では全国で集まった募金の内、1000万円を岩手県に手渡しました。

●消団連／生協連

全国消団連を通じて燃料を放出するよう石油元売りに働きかけています。生協はあたたかいものが食べたいという被災地の要求に応え、材料を農民連から調達して汁物の「炊き出し隊」を現地に派遣しています。

※共同対策本部では情報を集めています。メールかFAXで情報・写真等をお寄せ下さい。